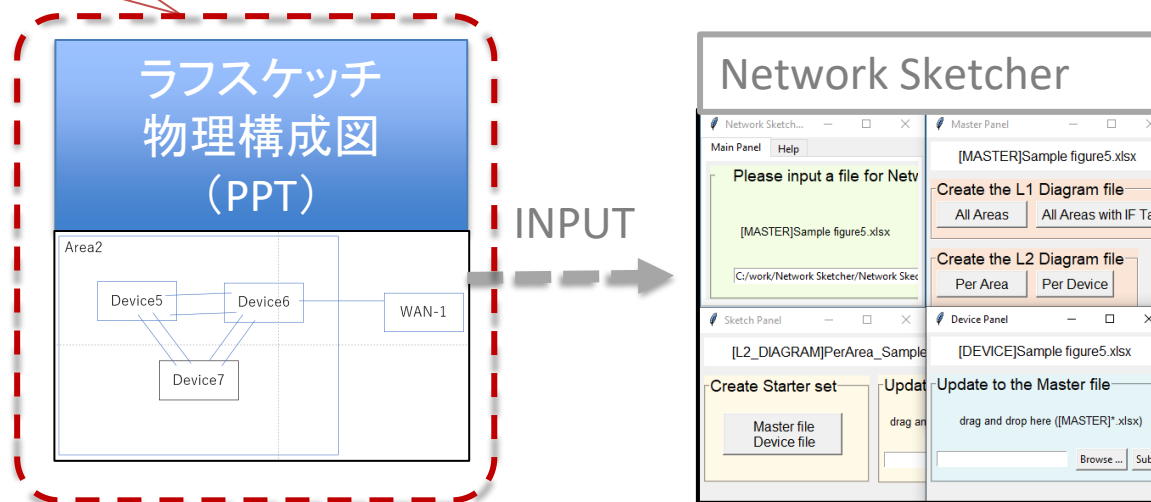


本手順でできること

Network Sketcher に読み込ませるための物理構成図のラフスケッチを作成します。

手動で作成



基本要素の説明

新規にPowerPointを作成し、以下の要素を記入します。名前は各図形を編集して書き込んでください。(図形内へのテキストオブジェクト配置は不可)

- ・Area枠(拠点)、及び名前
- ・デバイス図形(機器)、及び名前
- ・Way Point図形(WAN等)、及び名前
- ・結線

Areaは1ページに1つだけ定義可能です

【Area枠】

Areaはページ内で一番大きい図形をAreaと認識する。

【Way Point図形】

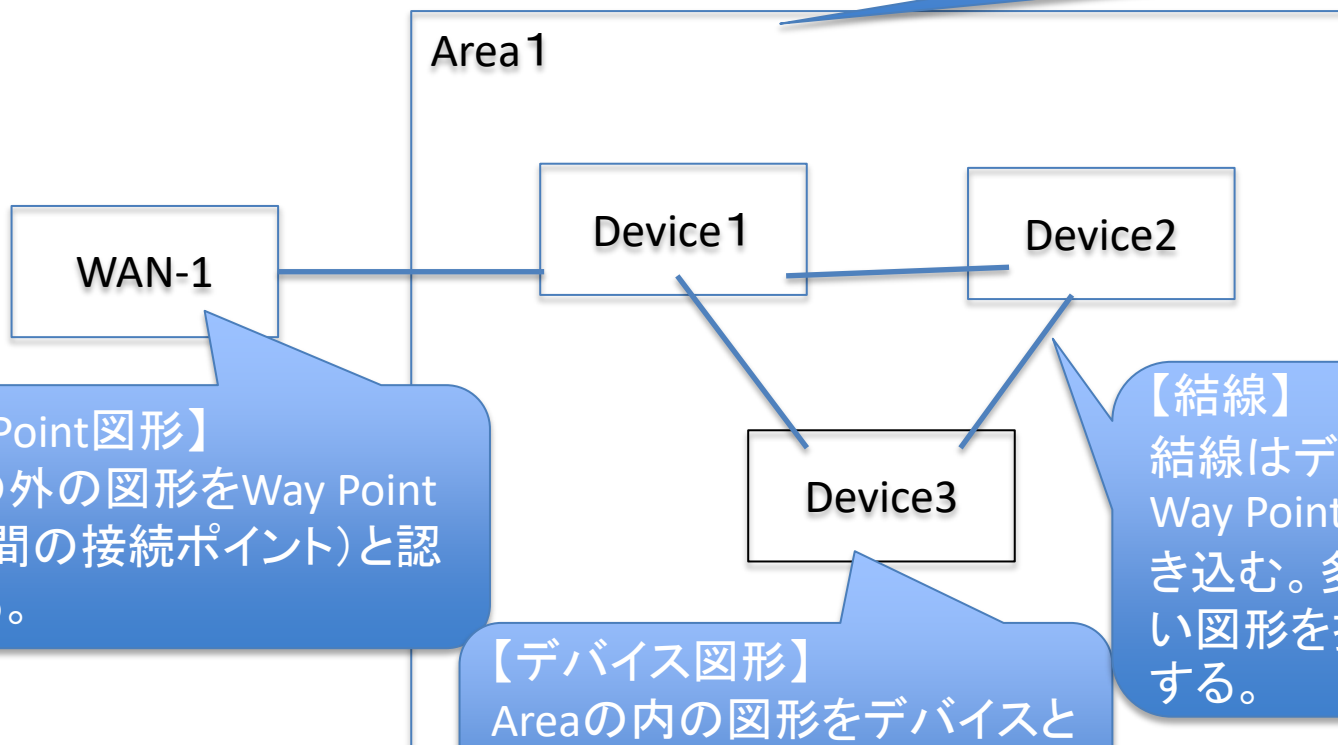
Areaの外の図形をWay Point (Area間の接続ポイント)と認識する。

【デバイス図形】

Areaの内の図形をデバイスと認識する。図形のテキストをデバイス名として認識する。

【結線】

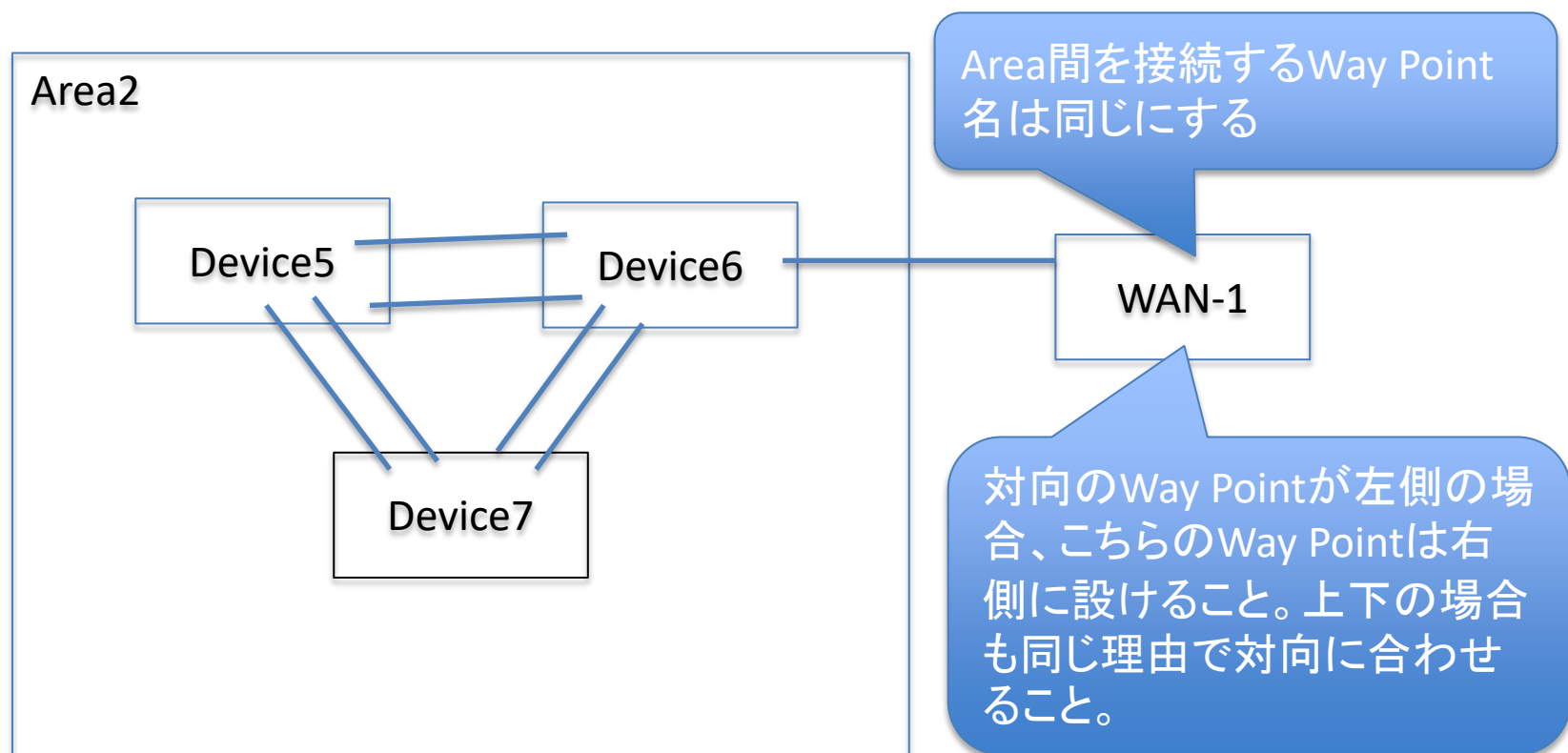
結線はデバイス間またはWay Pointとデバイス間で書き込む。多少ズレていても近い図形を接続先として認識する。



Area間の接続方法

PowerPoint 1ページにつき1つのArea(拠点)となります。複数のArea(拠点)がある場合は、ページを追加して異なるAreaを作成ください。

この際、同じWay Point名を用意することで、Area間の接続を認識します。

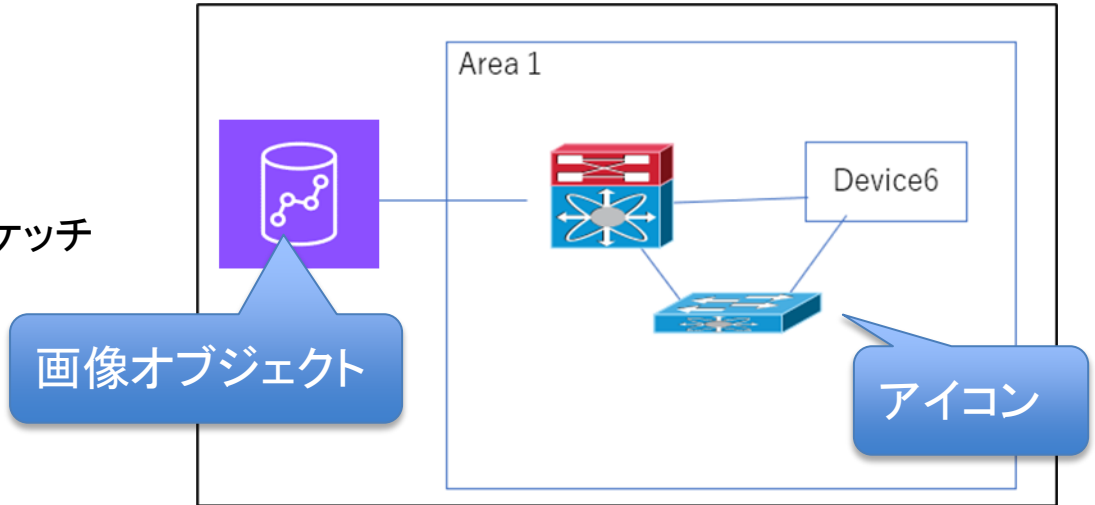


※左右の両方が接続されていないWay PointはArea構成に失敗する場合があります

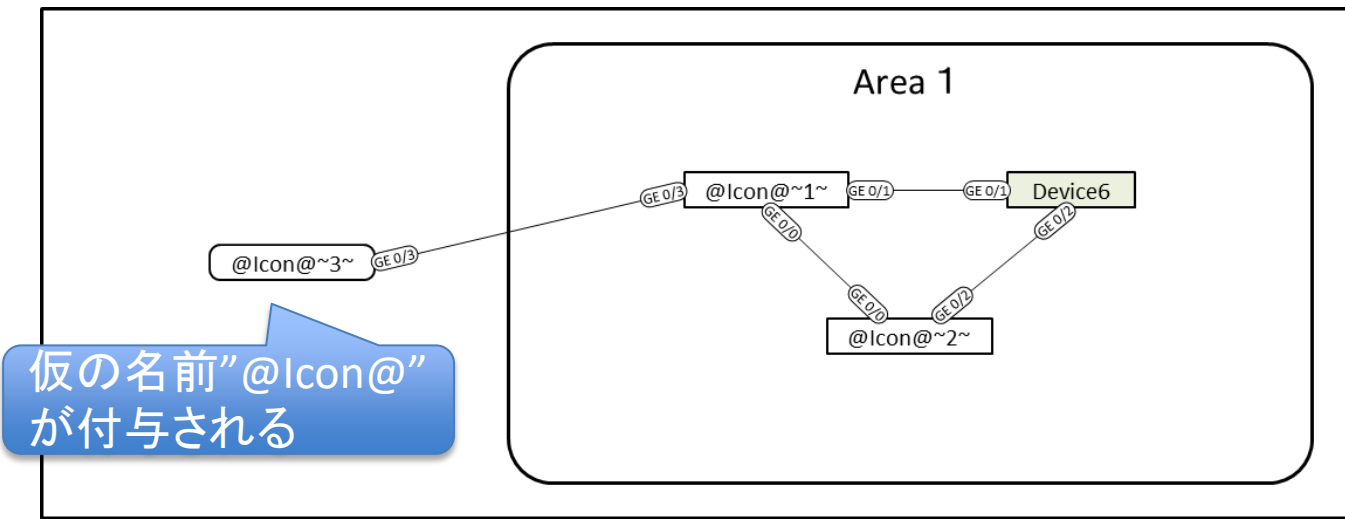
[Tips] アイコン・画像オブジェクトもデバイス図形に変換

アイコンおよび画像オブジェクトもデバイス図形として認識されます。名前が無いため、Network Skecher描画時には、仮の名前"@Icon@"が付与されます。

ラフスケッチ



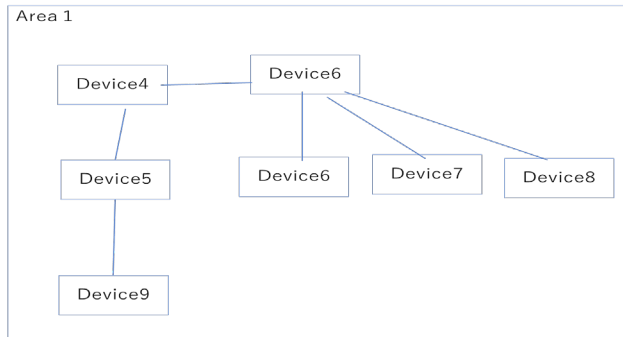
Network
Skecher描画



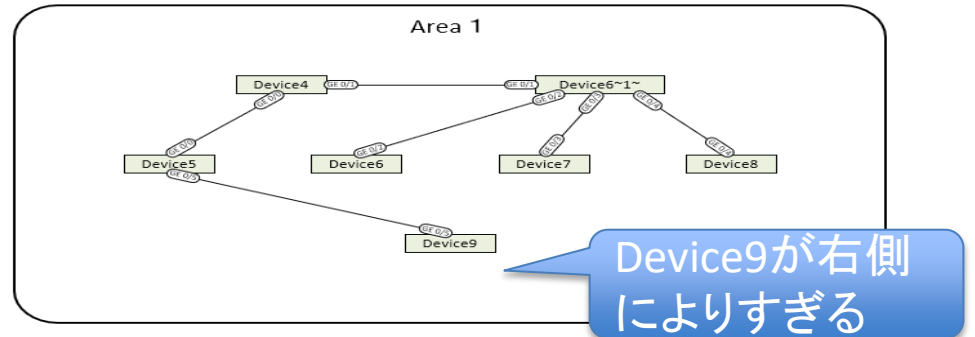
[Tips] AIRブロックを配置して位置を調整 Ver2.2.2以降は自動化されたため使えません

AIRブロック(“_AIR_”記載の四角シェイプ)を配置することで位置調整を行えるようになりました。
Network Skecher描画の際にAIRブロックは白色の線と文字に変換されて見えない状態となります。
複数のAIRブロックを置きたい場合はAIRブロックに数字を追記することで複数のAIRブロックとして認識します。例:3個分 → _AIR_3

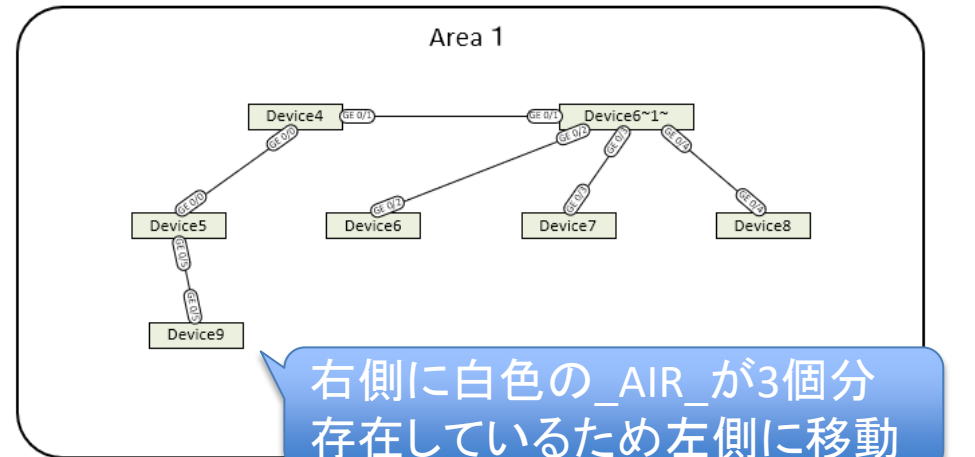
ラフスケッチ



Network Skecher描画



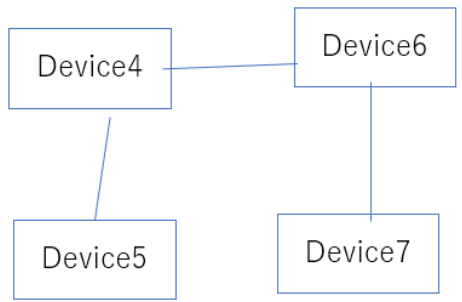
3個の“_AIR_”または1個の“_AIR_3”の四角シェイプを配置。
※図は3個の“_AIR_”を配置。



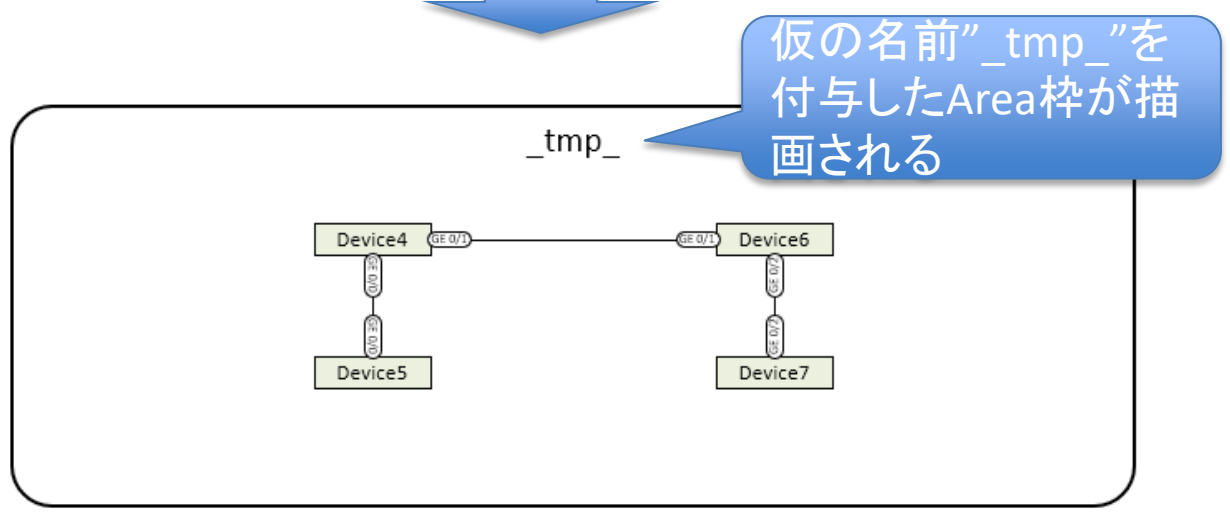
参考情報：Area枠が無くて自動で仮の名前を付与

ラフスケッチにArea枠が無い場合、自動でArea枠を追記してくれるようになりました。白色で仮の名前”_tmp_”が付与されます。

ラフスケッチ



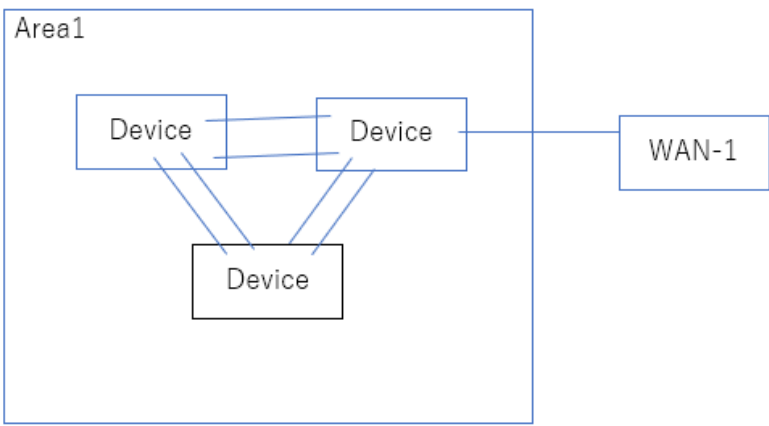
Network
Skecher描画



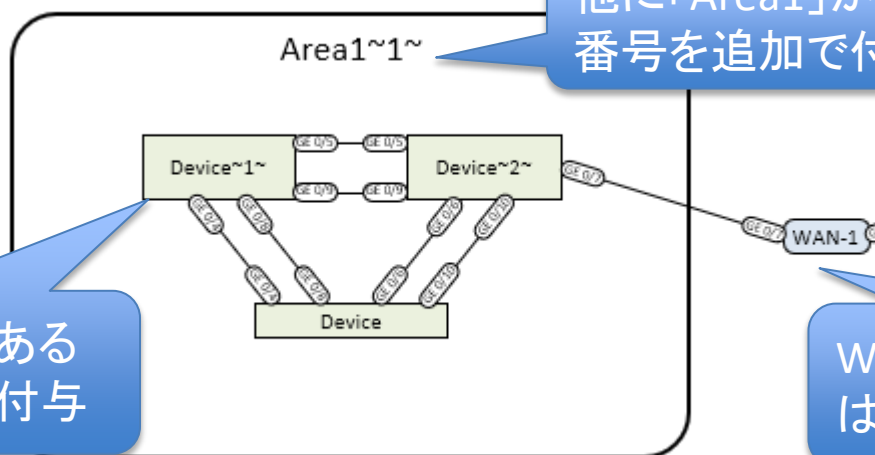
参考情報: デバイス名・Area名の重複時は番号を自動付与

デバイス名・Area名が重複している場合は、番号をつけて重複状態を回避します。Way Point図形(WAN等)は重複することで接続を認識するため対象外です。

ラフスケッチ



Network
Sketcher描画



他に「Area1」があるため
番号を追加で付与

他に「Device」名がある
ため番号を追加で付与

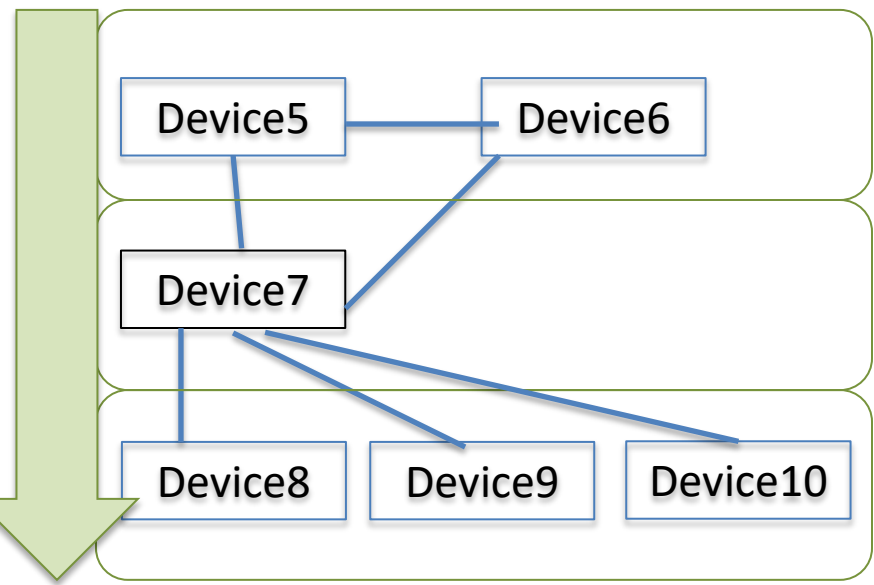
Way Point図形(WAN等)
は対象外

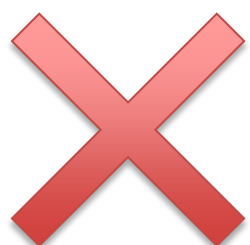
参考情報：デバイス・Areaの配置構成の方向について

構成図に配置するデバイス・Areaは横の帯を重ねる形で認識します。そのため、デバイス・Area間の横の並びを揃えて縦方向に構成するようにしてください。横方向への構成には対応していません。

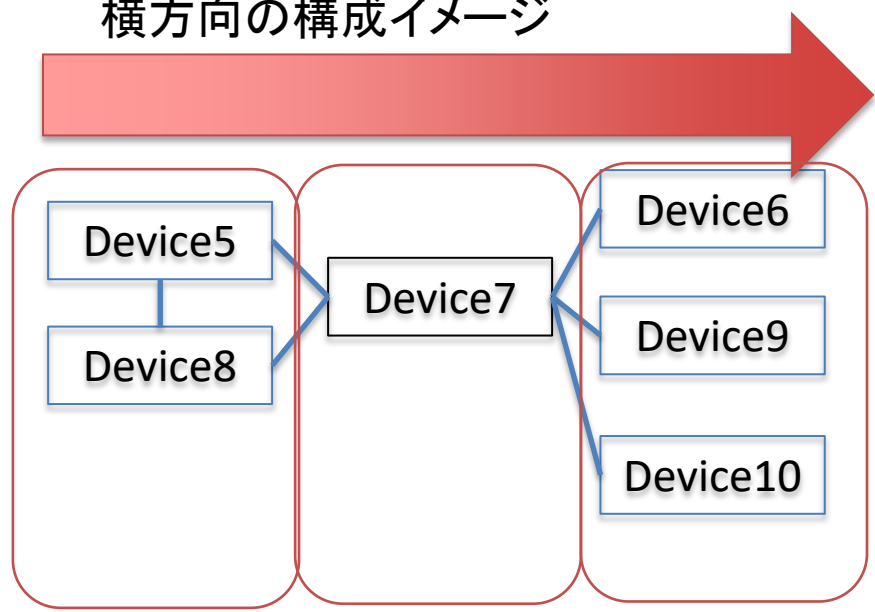
 対応

縦方向の構成イメージ



 非対応

横方向の構成イメージ



```
graph LR; subgraph Band1; D5[Device5]; D8[Device8]; end; subgraph Band2; D7[Device7]; end; subgraph Band3; D6[Device6]; D9[Device9]; D10[Device10]; end; D5 --- D7; D8 --- D7; D7 --- D6; D7 --- D9; D7 --- D10;
```


参考情報：認識するデバイス種別について

Network Sketcherがデバイス図形として認識する種別は以下の通りです。

Device6

... テキストが記入された図形オブジェクト。

※テキストが無い図形オブジェクトはデバイス図形として認識しません。



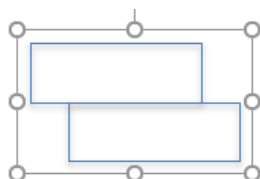
... 画像オブジェクト

参照元： <https://aws.amazon.com/architecture/icons/>



... アイコンオブジェクト

参照元： <https://www.cisco.com/c/en/us/about/brand-center/network-topology-icons.html>



... グループオブジェクト

※複数の線や図形オブジェクトもグループ化すると1つの画像オブジェクトとして認識します。